

4 シュレーゲルアオガエルの生息地

場所・範囲

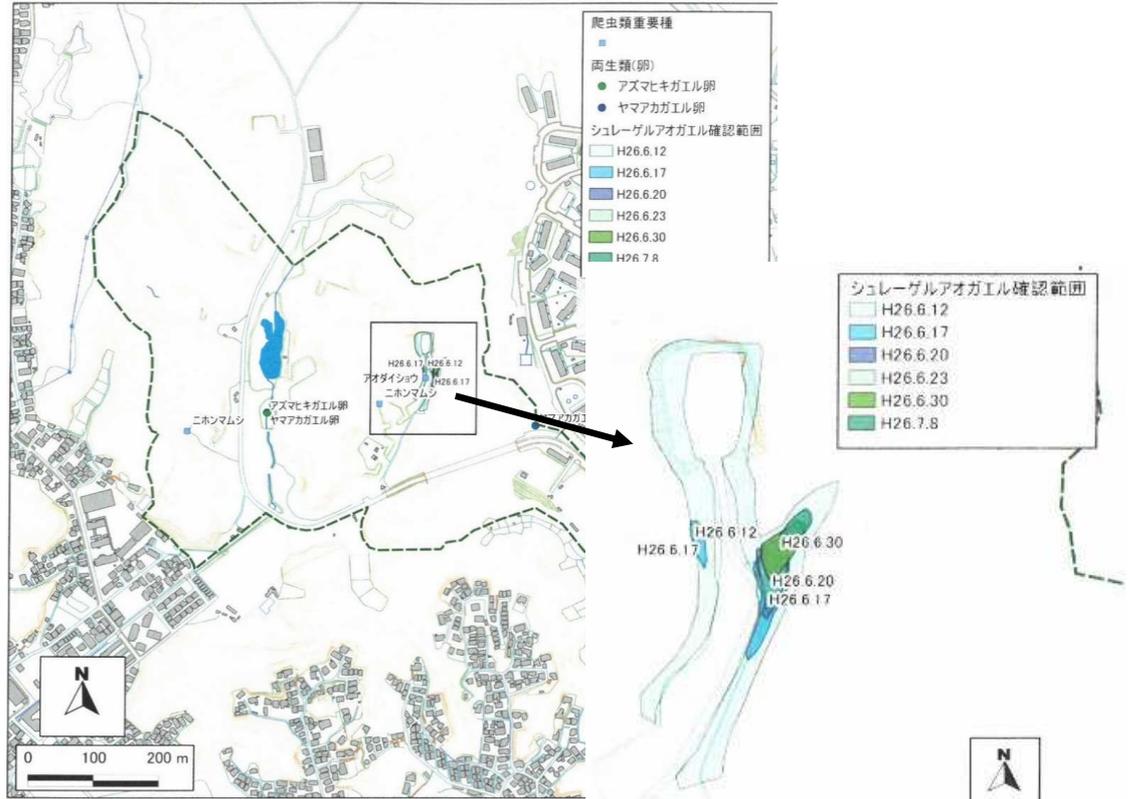


図 2-3-3 (1) 両生類・爬虫類重要種等位置

■作業スケジュール

作業	頻度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境整備	年 1 回												
調査	(卵塊確認・鳴声確認)												

保全管理

自然環境の特徴	<p>当初の調査結果（2015年）では、公園東側の谷戸でシュレーゲルアオガエルの鳴き声が確認されたが、2019年以降確認されていない。</p> <p>この谷戸は恒常的な水域は認められないが、奥部は降水後に小規模な流れや水たまりができる。そこを利用してシュレーゲルアオガエルが繁殖している可能性が高いが、現在では、その環境が消失している可能性がある。</p> <p>人が放逐したモリアオガエルが侵入している。</p>
利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・シュレーゲルアオガエルが確認された奥部は立入禁止の措置を行っている。 ・レクリエーションエリアとして位置付けており、緑地エリア内では唯一、火気の使用が可能な場所で子ども遊び広場として許可申請の下、プレイパークや学校のデイキャンプ等に活用されている。
保全の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シュレーゲルアオガエルの安定した繁殖地とし、毎年卵塊が確認できるよう保全管理を行う。 ・ヘビ類やサシバ等の重要なエサ資源であり、これを保全することで生態系に厚みを持たせることができる。

<p>管理の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度中に湿地環境を復元する。湿地面は粘土質の攪拌された土質がふさわしく、項目3で浚渫したヘドロを有効活用することができる。 ・ 谷底面が緩傾斜となる谷戸では、約5～10m×約10～20mの止水域を複数隣接するように設置することで、湛水面積を確保することができる。 ・ 項目3で発生するヘドロは150㎡であり、仮に1箇所50㎡のプールに50cmの厚みで入れ込むとすると、このプールは合計6箇所必要となる。 ・ 岸辺は産卵巣の形成を促すために2～3月に耕起する。 ・ 生息数はカルガモによる幼生の食害が無いこと、アライグマによる成体の食害が無いこと、そして合計の水域面積に比例する。 ・ モリアオガエル侵入による影響は未知であり、駆除を進める。 ・ アライグマによる食害を防ぐため、徹底的に駆除する。 ・ カルガモによる食害を防ぐため、復元した湿地は1年生の抽水植物が茂る水深1～5cmの浅い水域とする。
--------------	---

